

活動的な授業を通じて 自己表現への意欲を引き出す



■宮崎県立延岡星雲高等学校

活動的な授業を行うことで、 自己表現の意欲を引き出す

授業を進めていく中で気づいたことがあります。生徒は確かに文法力、単語力、音読力、聞き取る力を充分には持っていないが、自己表現の意欲は大いにあるということです。これを引き出すために授業では様々な工夫を行っています。例えば、授業の導入では「今月のパワープレイナー」と称し洋楽を流すことがあります。生徒はクロスドテストに取り組み、最後は暗唱まで行います。定期考査に出題することもあります。

生徒は、「模試で曲中の表現と同じものが出てきて、実用的な英語が身につけている感じがする」と感想を述べるなど非常に前向きです。

また、自己表現の意欲を引き出すという点からもGTECのWritingは効果的だと思えます。ただ、生徒はいきなり書けと言われても書ききれないことが多いので、まずは恐れずに書くということを事前の指導では重視しています。事前に自由英文のプリントに5題ほど取り組むのですが、必ずプリントには例文を提示しています。書き方が分からなくても真似ができるような状

態にしておくのです。その後、ALITに添削をお願いし、添削後に生徒はリライトします。ALITには文法間違いについて、よほど意味が通じなくなる場合のみ指摘をし、後は肯定的に捉えてほしいとお願いをしています。生徒の提出率も高く、Writingのスコアも伸びてきているので今後も継続していきたいと思っています。

GTEC×進研模試で 生徒の力を最大限引き出す

生徒はGTECのスコアの伸びを非常に注目しています。やはりスコアが伸びるといことは率直に嬉しいようです。3年間でGTECのスコアが240点近く伸びた生徒がいます。この生徒は1年7月進研模試で非常に高い偏差値でしたので、いわゆるCタイプの生徒でした。この生徒の場合は毎年ディベート大会に出場しており、そこに向けての練習も一生懸命やっていました。最後の大会では県で優勝することもできました。恐らく、ディベート大会を通じてこの生徒が持っている知識が使えるようになった成果が大会での優勝や240点近いスコアの伸びにつ

伸びていく先輩の 姿を意識させる

本校の生徒の多くは英語に苦手意識を持った状態で入学してきます。ただ、先ほども述べたように自己表現の意欲があります。この意欲を英語の授業を通じてどう引き出しているか

なかつたのだと思います。また、センター試験の結果を分析しているとタイプAの生徒は試験本番で予想以上の力を発揮していると思います。センター試験がGTECに近い部分があることも要因だとは思いますが、GTECと進研模試をクロスさせることでより細かい指導指針が立てられるなあと実感した瞬間でした。また、ある生徒は1年間でWritingのスコアが80点近く伸びました。進研模試では厳しい結果が続いていたのでタイプAの生徒です。普段は非常に物静かな生徒なのですが、Writingの答案を見たときに自己表現の意欲はあるのだと確信しました。このようにGTECのスコアはどの分野が伸びたのかを細かくみることができ、模試と組み合わせることのできるような生徒も発見できるので非常に役立っています。

くかを英語科全体でこれからも考え続けていきたいと思っています。そのなかで意識していることのひとつとして先輩の姿を見せるということは非常に大事にしています。GTECのスコアの伸びを見ても分かりますが、3年間で自由に英語を使いこなせる生徒がたくさん出てきます。そういった先輩の姿を見せることで目指すべき理想像を生徒に意識させるのです。その理想像に近づいたかどうかを判断する際に使うのは先輩のGTECのスコアです。

先輩のデータをいかに有効活用するかを考えていくと、今後は進路追跡をGTECのスコアで行うことなども一つの案として検討していきたいと思っています。

様々な視点から生徒を見ることで 生徒に自分の強みを認識させる

同校は、延岡西高等学校と延岡東高等学校とが統合され、平成17年4月に開校した新しい学校で、国際人文科と普通科とからなる。また平成23年4月より国際人文科の良さを引き継ぐ形でフロンティア科に学科変更となる。英語科が感じる生徒の問題点は、大きく分けて3つある。

1つ目はInput消化不良、拒絶反応があるという点。2つ目はOutput単語レベルに留まっている点。3つ目は学習習慣の未定着、学習法が分からないという点。これらの問題を解決すべく英語科では活動的な授業を通じて英語が使えることの実感を持たせようと様々な取り組みを行っている。

宮崎県立
延岡星雲高等学校

- 形態／全日制 普通科、国際人文科
- 生徒数／1学年240名
- 2010年度進路実績
国公立大には九州大、東北大など…53名
私立大には立命館大、福岡大など…152名が合格
- 所在地／〒882-0023
宮崎県延岡市牧町4722番地
TEL:0982-31-2491
- URL／<http://www.miyazaki-c.ed.jp/nobeokaseiun-h/>

国際人文科主任
安井 誠先生

「高い目標を持ち、例え失敗したとしてもその目標達成のために常に努力をする人になろう」と常々生徒に言っています。また、自分自身もそれを実践しようと日夜努力しています。「英語の授業は楽しい!」と生徒に思ってもらうために様々な工夫を心がけています。



1学年主任
柳井 健二先生

1時間という時間には限りがあります。有限だし、誰にとっても平等です。しかし、1時間の過ごし方は千差万別で、限りがありません。将来を大きく左右します。授業で生徒にどのような活動をさせるか、教師の責任は重大です。